



# Viva! Mexico ~メキシコ便り(3)



JICA (国際協力事業団)

の「日系社会シニアボランティア」として、平成14年7月から

メキシコで日本語教師として活躍されている仕切晴治さん(萩原)から3回目のニューズレターが届きました。

## タコス



一般の日本人にとって、メキシコ料理といえば、まずタコスが頭に浮かぶことと思います。確かに、タコスはメキシコの軽食の代表格ですが、こちらへ来て口にしたタコスは、日本で目にしていたものとは大分様相が違います。どうやら、日本人が考えているタコスは、アメリカを経由して大分変化してしまったものようです。

本場メキシコのタコスの基本になるトルティージャはせんべいのようなパリパリしたものではなくて、トウモロコシの粉をこねて、鉄板の上で

お好み焼きのようにあぶった柔らかいあつあつのものです。これに肉や野菜や豆をドサツとはさみ、お好みのサルサをかけて思いっきり頬張るのが本場メキシコのタコスです。



↑ 独立記念日 仮装パーティー 前夜祭



チレス・エン・ノガダ

例えば、独立記念日(9月16日)のころにしか食べないおめでたい料理に、チレス・エン・ノガダというのがあります。これはザクロ・クルミ・シラントロの葉で、赤白

緑。皆さんご存知のテキーラを飲むにも、サングリータというトマト汁を基本にした赤い飲み物とテキーラ(透明白)レモン汁(緑)を交互に飲むのが本式の飲み方だ。・・・なんていう人もいます。

メキシコの人はこのテキーラやそれよりもさらに強いメスカルなどという強い酒を平気でぐいぐいあおりますが、日本と違って公衆の面前では決して口にしないようで、日本のように酔っ払ってクダをまいている人は見たことがありません。

それどころか、酒を飲んで赤い顔でバスに乗ろうとすると、乗車を拒否されたりします。

飲酒運転には寛大なのに飲酒乗車には厳しい。・・・これもお国柄なんでしょうね。

※「日系社会シニア・ボランティア事業」は、JICA(国際協力事業団)により1990年度から始まった中南米地域の日系社会へ日本の中老年層を2年間派遣する事業です。(企画課)

## じんけん

### 子どもから信頼される 大人社会に(1)

子どもたちに関する事件が多発しています。それを報道するマスコミの心ないインタビューなどにふれると、悲しいというより怒りがこみあげてきます。

今の社会が、これ程多くの傷ついた子どもたちをつくっているとしたら、私たち大人の責任として、一刻も早く良い状態に変えていかなければなりません。

誰しも人からは良く思われたいはずですが、まして愛されたいと願う子ども、人を傷つけるには、当然のごとく、そこにいたる背景があるわけです。いろんななかたちで、SOSが発信されていたに違いありません。身近なほど、性格や癖という点にして、気がつかない場合もあります。

「子どもは大人の鏡」と



という言葉があります。専門家の方々は、傷ついた子どもたちの周囲には傷ついた人たちが居ると言います。たとえば、子育ての頃を振り返ってみましょう。子どものプライドも考えられず感情的な叱り方をしているときは、むしろ、大人の側に問題をかかえていたり、心配ごとや、思いどうりにならない辛い場合が多くないでしょうか？

子どもの目線に合わせて 言い訳を 聞くゆとりのない 時だった と思いません。

多くの場合、やさしく愛される子どもに育てたいと思いが、しんどい思いをしている大人たちは、子どもたちを傷つけてしまうのです。

(住民課人権推進室)